

土木遠景 第十一回 松尾鉾山跡

最近、廃墟がにわか注目を集めている。朽ちていく建造物特有の雰囲気や、往時の姿を想像することに魅了されるなど、興味の持ち方はさまざまだ。

岩手県の松尾鉾山跡には、約60年前に建設された鉄筋コンクリート造の集合住宅が廃墟となって立ち並んでいる。廃墟マニアには、とても有名なスポットだ。かく言う私も、松尾鉾山を知ったのは、ゴーストタウンと化した集

合住宅を写した写真集だった。

かつて東洋最大規模の硫黄の産出を誇った松尾鉾山には、鉾山関係者とその家族が1万人以上住み、一つのまちを形成していた。雪国でかつ標高900mという過酷な環境でありながら、福利厚生施設は充実し、「雲上の楽園」とも称されたという。集合住宅の廃墟はその名残だ。だが、その後、硫黄の需要は低下。1972年に鉾山会社は倒産し、完全に閉山してしまった。

松尾鉾山に興味を持つにつれて、鉾山跡に鉾水処理場とすり鉢状のダムが設けられていることを知った。下流の北上川の水質を保全するため、鉾山跡から流出する強酸性の廃水を半永久的に中和処理しなければならぬという。日本近代化の立役者だった鉾山が、現代となつては負の遺産となつていったのだ。

廃墟へのアプローチは、ときとして、それを取り巻く歴史を探求することにつながる。荒れ果てた松尾鉾山跡は、人類の栄枯盛衰を象徴しているかのように見えた。

文・写真 大村拓也

おおむら・たくや

1982年生まれ。写真家。大学で土木を専攻。卒業後、写真撮影に針路をとる。大学4年間で苦学して修めた構造力学の知識を生かして雑誌取材を中心に土木の施工を撮影している。

[撮影地] 岩手県八幡平市 茶臼岳山頂

© OMURA Takuya